

## 「子育て先進区」実現に向けた取組について

区は、少子高齢化や人口減少の進展による地域活力の低下が大きな課題となっていることから、「子育て先進区」の実現を区政運営の柱の一つとして掲げ、これまで、区の子育て環境の実態把握や基本的な考え方の検討を進めてきたところである。

区が、子どもと子育て家庭の満足度が高く、多くの子どもと子育て家庭から選ばれる「子育て先進区」を実現するためには、まち全体の様々な環境を整える必要がある。このため、「子育て先進区」の実現については、現在検討を進めている新しい基本計画と一体的に検討を進め、実現に向けた方針を明確化したうえで計画化し、全庁を挙げて取組を進め、「子育て先進区」の実現を図っていく。

### 1 総合的な取組の推進

- 全庁的な検討及び調整、並びに取組の推進を適切に行うため、全庁的な推進体制として、(仮称)子育て先進区推進会議(以下「推進会議」という。)を設置する。
- 推進会議での議論等を踏まえ、「子育て先進区」に向けた具体的な新規・拡充の取組について、新しい基本計画の中で明らかにすることとし、新しい基本計画と一体的に検討を進めていく。
- 「子育て先進区」を実現するための基本的な考え方である『子育て先進区』実現に向けた基本方針(以下「基本方針」という。)について、骨子を踏まえ、別添のとおり取りまとめる。

### 2 今後の予定

令和2年3月下旬に基本方針を取りまとめるとともに、令和2年度当初に推進会議を設置する。また、「子育て先進区」に向けた具体的な新規・拡充の取組については、新しい基本計画の中で示していく。

別 添

# 「子育て先進区」実現に向けた基本方針(案)

令和2年(2020年)3月

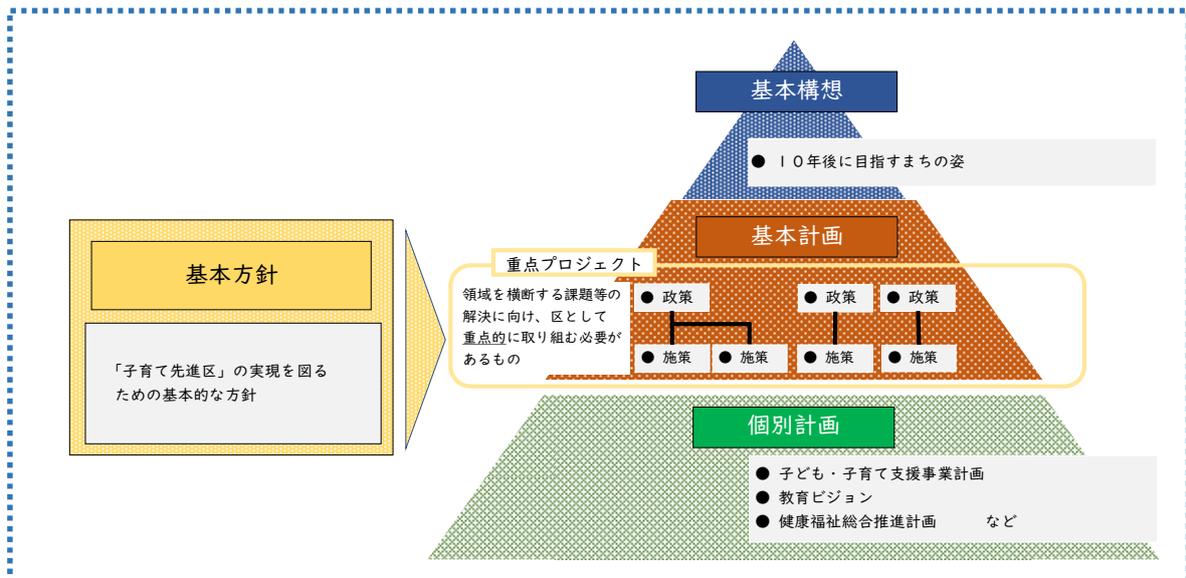
中 野 区

## 1. 「子育て先進区」実現に向けた基本方針

「『子育て先進区』実現に向けた基本方針」（以下「基本方針」という。）は、区の子育て環境に対する、子どもと子育て家庭の満足度と認知度の向上を図り、「子育て先進区」を実現するための基本的な方針を示すものです。

基本方針において、区の子育て環境の強み・弱み等の特徴、子どもと子育て家庭にとっての重要度等を捉えたうえで、区が優先的に取り組むべき環境整備とそれを進めるための考え方等を明らかにすることにより、戦略的に「子育て先進区」実現に向けた取組を推進します。

### <基本方針と基本構想・基本計画等との関係>



## 2. 区を取り巻く状況

区の人口について、2015年の総人口は31.7万人で、近年増加傾向にあります。区の長期推計（基本推計）では、2040年までは増加傾向が続き34.2万人に達しますが、その後は減少に転じ、2060年には33.1万人になると予想されます。

人口構成について、65歳以上の割合は、2015年の20.9%から2040年には24.9%に増加することが予想されます。また、生産年齢人口の割合は、2015年の70.5%から2040年には66.6%に、年少人口の割合は、2015年の8.6%から2040年には8.4%まで減少することが予想されます。

このような人口構成の変化や人口減少に伴う地域活力の低下が、区政運営の大きな課題となっています。子どもと子育て家庭に対する取組を積極的に行うことにより、年少人口の増加や将来の人口減少の緩和など、活力が溢れるまちを実現していくことが求められています。

一方で、人口減少や少子高齢化の進展による地域活力の低下は、日本の社会全体として抱える大きな課題です。首都圏に位置し、30万人以上の人口を抱える都市である区が、その特徴を活かしながら「都市型自治体」のモデルを構築することは大きな意義があることであり、そうした役割が期待されています。

### 3. 区の現状と課題

区の合計特殊出生率は、近年増加傾向にあり、1.0前後で推移していますが、都平均、23区平均を下回っています。また、区の人口動態は、区民全体では転入超過であり総人口は増加傾向にありますが、子育て家庭の多くを占める年齢階層である、乳幼児期～小学生の年代の子ども、25歳～40歳の区民については転出超過となっています。

これらのことから、区の子育て環境に対する、子どもと子育て家庭の満足度と認知度の向上を図り、出生率を向上させるとともに、子どもと子育て家庭の区内定住を促進するなど「選ばれる」まちをめざす必要があります。

さらに、23区の自治体の多くは、少子高齢化の進展を見据え、子どもと子育て家庭に対する取組に力を入れています。また、インターネット技術の発展や SNS 等のツールの一般家庭への普及により、自治体間の取組や子育て環境の比較が子育て家庭の間で活発に行われるようになってきました。区として、子どもと子育て家庭から「選ばれる」ことを意識し、区の特徴を活かした取組を進めていく必要があります。

#### 4. 区がめざす「子育て先進区」

区は、現状と課題を踏まえ、区がめざす「子育て先進区」を次のとおり定めます。

子どもが健やかに育ち、子育てをする上で必要な環境が整っており、子どもと子育て家庭の満足度の高いまちとなっている。そうした区の子育て環境が区内外に認知されており、多くの子どもと子育て家庭から選ばれるまちとなっている。

子育てしてよかったまち

育ててよかったまち

子育てしたいまち

#### 5. 6つの基本姿勢

区は、以下の6つの基本姿勢を踏まえて、取組を進めていきます。

- 1 まち全体で、子どもを見守り、子育てを応援する。
- 2 子どもの想いを大切にし、子どもの視点で考える。
- 3 子どもを地域の一員として捉え、参画を支援する。
- 4 子ども一人ひとりに向き合い、一人も取り残さない。
- 5 子どもの「今」を大切にし、よりよい環境を整備する。
- 6 次の時代を創る子どもたちの未来に重点的に投資する。

## 6. 成果を測る指標

区は、区の子育て環境に対する、子どもと子育て家庭の満足度と認知度の向上を図ることをめざしていくことから、以下の指標により成果を測ります。

指標は、中長期の取組の成果を測るものとし、おおむね5年ごとに調査を行い、測定します。また、取組の成果を直接的に測るものではないものの、成果を多角的な視点から捉え、年度ごとに確認することのできる指標を参考指標とします。

### <満足度>

指標(中長期)	実績 <sup>1</sup>	目標
子どもの保護者の定住意向	61.2%	77.2%
子どもの定住意向	61.2%	77.9%

参考指標(毎年度)	実績 <sup>2</sup>
行政サービス(子育て支援)の満足度	52.8%
行政サービス(学校教育)の満足度	57.3%

<sup>1</sup> 「子どもと子育て家庭の実態調査(平成31年度実施)」において、「あなたは、これからも中野区に住み続けたいと思いますか。」という設問に対し、「ぜひ住み続けたい」または「できるなら住み続けたい」(定住意向有)と回答した割合。

<sup>2</sup> 「2019中野区区民意識・実態調査」において、「中野区の行政サービスに満足していますか(過去1年間)。」という設問に対し、子育て支援、学校教育の項目で「非常に満足している」または「まあ満足している」と回答した割合。

<認知度>

指標(中長期)	実績	目標
都内の子どもの保護者の認知度 (23区比較)	11位 <sup>3</sup>	3位以内

参考指標(毎年度)	実績
民間事業者によるランキング (住みよい街)	52位 <sup>4</sup>
民間事業者によるランキング (共働き子育てし易い街)	ランキング外 <sup>5</sup>

<sup>3</sup> 「中野区子育てに関するアンケート調査(平成31年度実施)」の実施結果より。東京都下の自治体(島しょ部を除く)に居住している中学3年生以下の子どもがいる保護者を対象に、「子育てし易い環境が整っていると感じる区(東京23区)の1位から3位をお答えください。」との設問に対し、各区毎に集計を行った際の中野区の順位。

<sup>4</sup> 「シティブランド・ランキングー住みよい街2019ー」(日経BP総研による調査)の実施結果より。当該ランキングでは、独自に設定した8分野38項目(例:保育園・幼稚園・認定こども園などが充実している/入りやすい、教育機関が充実している、公園が多い、治安がよい、病院や診療所が多い、街に活気があるなど)について、[日経新聞電子版]登録者を中心に実施したモニター調査により、各項目毎の評価を5段階で尋ねて加重平均値を算出し、38項目のポイントの合計値を自治体ごと(全国341市区)に偏差値化している。

<sup>5</sup> 「共働き子育てしやすい街ランキング2019」(日経DUAL・日本経済新聞社による調査)の実施結果より。当該ランキングは、独自に策定した38項目(例:全クラス利用児童数と未就学児の人数の比率、病児・病後児保育施設の有無、未就学児がいる世帯へのサービスや現物支給の有無や数、学童保育の運営時間、未就学児の人数・増加率など)について、自治体(首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)、中京圏、関西圏の主要市区と政令指定都市、道府県庁所在地の162自治体)を対象としたアンケートを行い(回答は139自治体)、各項目毎に点数化している。中野区はインターネット上で公開されている総合編上位50位、東京編上位30位にランクインしていないため、ランキング外とした。

## 7. 「子育て先進区」実現に向けた展開イメージ

区は、以下の3段階の展開イメージを想定し、「子育て先進区」を実現していきます。

### <第1段階> 「子育て先進区」の実現に向けた基礎づくり

- ・多くの子どもと子育て家庭が不満に感じていることのうち、早期に改善が図られる取組を形にする。
- ・改善等に期間を要する取組について計画・準備に着手する。
- ・子育て関連団体等の掘り起こしと、団体間のネットワークづくりを行う。

- ・子どもと子育て家庭は、区が「子育て先進区」に向けて、子育て環境の整備を進めていくことを実感し、期待を抱いている。
- ・区が「子育て先進区」に向けて、子育て環境の整備を進めていることが広く認知されている。

### <第2段階> 区の特徴を活かした子育て環境の整備

- ・選ばれる自治体となるため、区の特徴を活かした新たな取組を実施するとともに、計画・準備段階の取組を形にする。
- ・区と子育て関連団体等の連携した取組を推進し、協働体制を構築する。

- ・子どもと子育て家庭は、区の子育て環境に対し、満足感を得ている。
- ・区の子育て環境が認知され、子どもと子育て家庭から注目されている。

### <第3段階> 将来を見据えた子育て環境の維持・向上

- ・将来を見据えた施設整備や仕組みづくりを行うなど、区の子育て環境の維持・向上を持続的に推進する。
- ・子育て関連団体等が継続的に活動し、新たな担い手が生まれる仕組みづくりを行う。

- ・子どもと子育て家庭は、区の子育て環境に対し、高い満足感を得ており、他の家庭に対し、区での子育てを奨めている。区内で良質な子育てを経験することにより、区への愛着や誇り(シビックプライド)が醸成されている。
- ・区の子育て環境が広く認知され、子どもと子育て家庭から支持されている。

## 8. 子育て環境の強み・弱み等の特徴

「子どもと子育て家庭の実態調査」（以下「実態調査」という。）により、区の子育て環境に対する子どもと保護者の満足度及び両者の定住意向を把握しました。この分析から、区の強みまたは弱みとなっている環境が存在していること、各環境の満足度の総量が低いと転出意向が高いという傾向があることが明らかとなりました。さらに、「弱み」として分析した環境は、子育て家庭と区長のタウンミーティング（愛称：子育てカフェ）やインターネットによる意見募集等（以下「意見聴取の機会」という。）において不満や改善を求める声が多かった環境でもありました。

【実態調査において把握した区内の子育て環境および強み・弱みとなる環境】

保護者		子ども
○健康や医療環境	●遊び・憩いの環境	○まちの人達とのつながり
○地域環境（コミュニティ）	●商業環境	●遊び場所
○住宅環境	●保育や子育てサービス環境	●買い物をする場所
・教育・学習環境		・教育・学習
・移動や交通環境		・移動や交通
・安全や安心環境		・安全・安心

※○：強みである環境 ●：弱みである環境

## 9. 優先的に取り組むべき環境整備

子育て先進区の実現に向けた環境の整備に際しては、限られた資源（ヒト、モノ、予算等）を有効に活用していくため、子どもと子育て家庭の区内定住を促進するという観点から、転出の要因と考えられる「弱み」である環境を優先的に整備していきます。また、それ以外の環境についても、子どもと子育て家庭の声や社会環境の変化等を踏まえ、継続的な整備を行います。

優先的に取り組むべき環境整備
・遊び・憩いの環境
・商業環境
・保育や子育てサービス環境

## 10. 子育て環境整備における3つの視点

子育て環境の整備にあたっては、次の3つの視点を踏まえて推進していきます。

### ○選択と集中

効果が高い取組に資源を優先的に投入し、効果的・効率的に環境の整備を行います。

### ○協働と協創

地域や事業者など、区内の様々な主体と共に取り組むとともに、新たな価値を生み出す視点で考えます。

### ○効果的な情報発信

取組の対象に焦点を合わせ、事業の効果を最大限得ることができるよう情報を発信します。

## 11. 各子育て環境整備の方向性

実態調査と意見聴取の機会において、把握した区の子育て環境の課題等から、検討の視点を定め、これを踏まえて、各子育て環境の整備を行います。

### 1) 遊び・憩いの環境

<検討の視点>

- 遊ぶこと・楽しむことに夢中になれる、保護者が子どもを安心して遊ばせることができる公園、屋内施設等の充実

### 2) 保育や子育てサービス環境

<検討の視点>

- 保育園や学童クラブの質の向上と待機児童の解消
- 子どもと子育て家庭のニーズの変化に対応したきめ細やかな事業やサービス、相談支援体制の充実

### 3) 商業環境

<検討の視点>

- 子どもと子育て家庭を対象にした店舗等の誘導・支援
- 利用しやすい店舗に関する情報発信の強化

### 4) 教育・学習環境

<検討の視点>

- 特色のある公教育の充実と子育て家庭に対する情報発信の強化
- 外国語や ICT 関連の教育・学習の機会の充実

### 5) 移動や交通環境

<検討の視点>

- 子どもが安全に移動できる交通・道路環境の整備

### 6) 安全や安心環境

<検討の視点>

- 子どもを受動喫煙から守る対策の推進
- 交通安全対策、通学路の安全対策の推進
- 生まれた家庭環境に左右されず、子どもが健やかに育つための支援の充実

### 7) 住宅環境

<検討の視点>

- 子どもと子育て家庭の定住促進につながる住宅の整備・誘導

### 8) 地域環境(コミュニティ)

<検討の視点>

- 地域への愛着を醸成し、定住促進につながる取組の検討・実施

### 9) 健康や医療環境

<検討の視点>

- 子どもの食育、健康、体力づくりの取組の充実
- 救急医療体制の充実と情報提供の強化